

2019 新年交流会 全投句作品 お題は「新年」

選者の作品

開けゴマ 暗雲蹴散らし とき新た
ヴィーナスは 初陽のヴェールで 沐浴す
新しき 道を踏みだす 怖さかな
木枯しの 罵詈雑言に 身を竦(すく)め
たじろがず 焰(ほむら)纏(まと)へよ フェニックス

優秀5作品

新世紀 開く扉に スパナ飛ぶ
口づけのあと 凍ったみかん食べる
吸う吐くは とぎれなくいく 年は変われど
新しい 家族と過ごす 招き猫
冬ふかし 正月休み 五度寝する

佳作5作品

未知食を! つばさ生えたり 宇宙旅
新年号 人待ち顔の 山光る
除夜の鐘 遠くより来て 窓あける
年のかず リセットすれば 初恋の人
初晴れの 青を切りさく 飛行雲

以下、全部掲載します。

いかほどの涙の味か 初凍り
何がメデタイのか 解らない新年
胎動の 闇こそ珠か 新世紀
賀茂川に 子どもの声が流れゆく
新しい年を一步踏み出して あたりキョロキョロ サテ
世の不安 抱えて乗り越す 新しき初春
悲しみも 新年になって 忘れた

講評 すみくらまりこ

新年というお題で即興で詠んいただきましたが、じつにさまざまな新年が描かれています。勇氣と工具という斬新な言葉の組み合わせに、はっとする驚きがありました。そこには人はいませんが、工具すら気合が入っていると思います。力があまって飛んでいったという絵は、いかに心が必死であるか解ります。オリンピックスタジアムの建設もいまがさかり、どうぞ無事故でと祈ります。こんな見えないところに焦点を当てられることに感心しました。口づけのあと・・・は、これだけで恋人空間が描かれています。斬新な俳句と評価されました。吸う吐くは・・・一生にする呼吸の数を数えたという選者が推していました。自然のときは目盛なく、人間の都合により逆に時が刻まれていっているのでは、ともとれます。招き猫にとっての新しい家族という逆転の発想も評価されました。冬ふかし・・・は若者ならではの五度寝にみな頷いて、ユーモアを誘いました。佳作・選外も作者の意表をつく詠みに、ネオ・エポック俳句の趣旨が通じてきたように思います。